

# 国際宇宙移動大学から

[ 4 ]



日本電気宇宙開発事業部第一システム開発部技術課長

## 上村 正幸氏

人類初の人工衛星は一九五七年にソ連が打ち上げたスプートニク一号。米國は翌五八年にエクスプローラー一号で成功し、日本初の人工衛星は米國が月面着陸を成功させた翌年七〇年、東大宇宙航空研

### 人工衛星の設計と製造

究所が鹿児島県内浦から打ち上げた「おおすみ」だ。人工衛星の設計で求められているのは第一に軽く、小さく、部分に載せるため疊二枚分の大きさで制限される。また、動力源となる太陽熱電池は、太陽熱収集板一層四方当たり

### 「軽く小さい」が条件

千四百ワを集めるが、実際に電氣としては使えるのは百四十一百八十ワと小さい。人工衛星には気象観測、通信、放送などを担う実用衛星と海洋観測、X線観測などの科学衛星とがある。これらの衛星は構想から打ち上げまで五、六年かかり、この間約百億円が投入される。



宇宙開発事業団宇宙実験グループ第一次材料実験推進室主任開発部員

## 矢代 清高氏

日本人のPS(宇宙飛行士は毛利衛さんら三人だ。八三年に、五百三十三人の応募の中から一年半の選抜期間を経てこの三人が決まった。PSになるための資格は現在確定していないが、三人の経歴を

### 飛行士になるためには

強い体力と精神力を  
一五二型一、一九三型という制約があり、体重制限もある。宇宙ステーション建設にも宇宙で長期間を過ごす想定が



宇宙科学研究所助教授

## 的川 泰宣氏

日本初のペンシルロケットは東大宇宙航空研究所の糸川英夫教授によって開発され、昭和三十年八月六日、秋田県道川で初めて空に向けて打ち上げられた。このペンシル型はわずか全長二十三センチ

### ペンシルからミュー

昭和30年第1号発射  
た。同年、約一・五メートルのペビ一型の打ち上げが成功し、三十三年の二段式カップパ6型(約五・五メートル)の成功によって

### 昭和30年第1号発射

がけ「小さい」「きんが」などを打ち上げており、今後三、四基が計画されている。宇宙に關しては昨年のハレー星観測に見られるように国際協力が随分と進んでいる。ロケット開発は「平和」に役立てるといふ信念で取り組まれていることを忘れてはならない。

# 十勝毎日新聞

発行所  
十勝毎日新聞社  
〒080 帯広市東1条南8丁目  
電話-編集②2121、広告②2323、総務・販売②2222  
©十勝毎日新聞社 1987